



モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター

2014年 春期概要

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2014年春期の結果概要

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の2014年度春期概要をお知らせします。



写真1. ハマシギ

2014年度春期調査は、2014年4月1日から5月31日までの期間実施されました。115ヶ所の調査サイトで調査が実施され、このうち一斉調査への参加は103ヶ所でした。2014年度の春期の一斉調査期間(4月20日を基準日とした前後1週間)では、44種 28,880羽、ツクシガモ 370羽、ヘラサギ 5羽、クロツラヘラサギ 136羽、ズグロカモメ 8羽が記録され、春期の最大個体数(調査期間内に記録された個体数の最大値)の合計は、53種 97,499羽が記録され、ツクシガモ 1,577羽、ヘラサギ 11羽、クロツラヘラサギ 234羽、ズグロカモメ 270羽となりました。

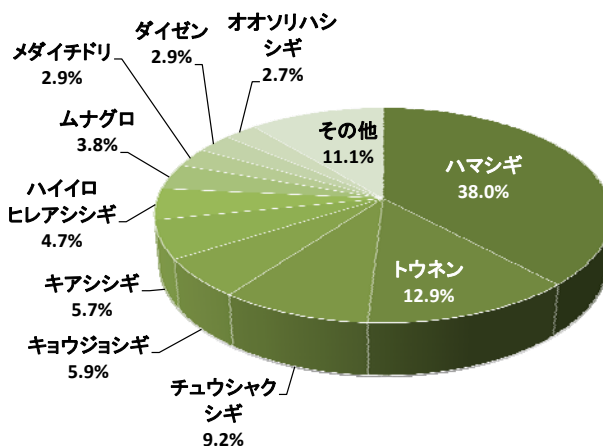


図2. 2014年春期調査の優占種

春期の個体数は安定的に推移

2000年からの「全サイトの最大個体数の合計」と「連続して調査が継続されているサイトの最大個体数の合計」を、グラフに示しました(図1)。また、それぞれ年変動の非常に大きいヒレアシギ類を除いたグラフも示しています。全サイトの最大個体数の合計は、前年度春期と比べ約12,000羽減少していますが、ヒレアシギ類の減少も約12,000羽であり、ヒレアシギ類を除くと前年と同水準でした。2000年から春期は増加傾向にあります。登録サイトも増加しています。継続サイトのみで見ると各年で約50,000羽前後で安定的に推移しています。

全サイトの最大個体数合計における優占種の上位5種は、ハマシギ(38.0%)、トウネン(12.9%)、チュウシャクシギ(9.2%)、キョウジョシギ(5.9%)、キアシシギ(5.7%)の順でした(図2)。昨年度春期は、アカエリヒレアシギ、ミユビシギが上位に入りましたが、今年度は10位以下となり、ハイロヒレアシギ、メダイチドリが10位以内に入ってきています。ハマシギ、ミユビシギは越冬個体が残っている影響もありそうです。

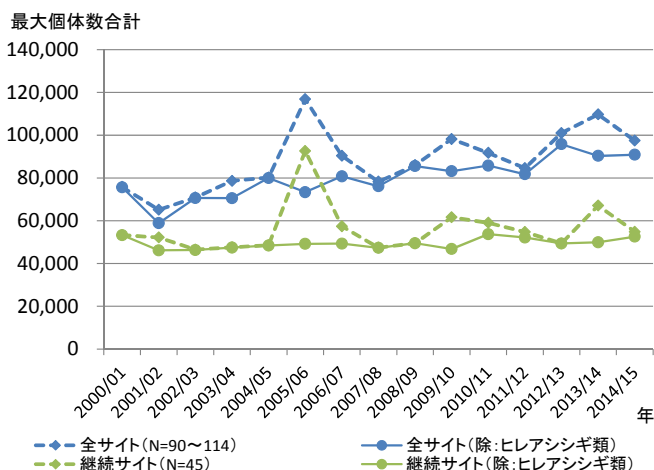


図1. 春期調査における全サイトと継続調査しているサイトの最大個体数合計の推移とヒレアシギ類を除いた推移

表1. 2013年春期と2014年春期の調査に参加した106サイトの各種の最大個体数合計の順位と前年度比。2013年春を“1.00”として増減率を表記。薄赤色は昨年よりも20%以上減少した種。2014年春に25羽以上確認されている種を対象とした。

種名	個体数		前年度比	種名	個体数		前年度比	種名	個体数		前年度比
	2013年春	2014年春			2013年春	2014年春			2013年春	2014年春	
1 ハマシギ	35,729	36,360	1.02	13 アオアシシギ	871	959	1.10	25 ダイシャクシギ	68	119	1.75
2 トウネン	9,242	12,563	1.36	14 ソリハシシギ	647	849	1.31	26 タカブシギ	394	118	0.30
3 チュウシャクシギ	8,577	8,655	1.01	15 シロチドリ	790	765	0.97	27 ツルシギ	65	81	1.25
4 キョウジョシギ	4,613	5,612	1.22	16 ミヤコドリ	557	612	1.10	28 ヒバリシギ	34	57	1.68
5 キアシシギ	4,414	5,248	1.19	17 タシギ	381	488	1.28	29 オオメダイチドリ	62	55	0.89
6 ハイイロヒレアシシギ	73	4,602	63.04	18 コチドリ	417	419	1.00	30 アカアシシギ	62	51	0.82
7 ムナグロ	3,833	3,505	0.91	19 ケリ	274	356	1.30	31 オグロシギ	55	50	0.91
8 ダイゼン	3,121	2,762	0.88	20 イソシギ	245	237	0.97	32 クサシギ	41	49	1.20
9 メダイチドリ	2,057	2,688	1.31	21 オバシギ	1,866	222	0.12	33 オオハシシギ	49	46	0.94
10 オオソリハシシギ	2,372	2,631	1.11	22 ホウロクシギ	161	171	1.06	34 サルハマシギ	33	32	0.97
11 アカエリヒレアシシギ	18,604	2,008	0.11	23 セイタカシギ	392	141	0.36	35 コアアシシギ	132	27	0.20
12 ミユビシギ	2,352	1,603	0.68	24 ウズラシギ	99	133	1.34	36 オオジシギ	24	25	1.04

内陸の湿地に生息する種の減少傾向

種毎に昨年度春期の個体数と比較した表を表1に示します。アカエリヒレアシシギとオバシギ(前年度比0.1倍)、コアアシシギ(同0.2倍)、タカブシギ(同0.3倍)、セイタカシギ(同0.4倍)の減少が大きく、次いでミユビシギ(同0.7倍)が前年度から2割以上減少している種となりました。アカエリヒレアシシギは、年による変動が激しく、今年度は比較的少な年でした。また、オバシギが大幅に減少していたのは、これまで一定の幅で増減を繰り返して推移していた個体数が、昨年度春期に大幅に増加し、今年度春期に減少したためです。



写真2. タカブシギ

絶滅危惧Ⅱ類のタカブシギ、セイタカシギ及びオグロシギは、主に水田や湖沼などの内陸の湿地に生息

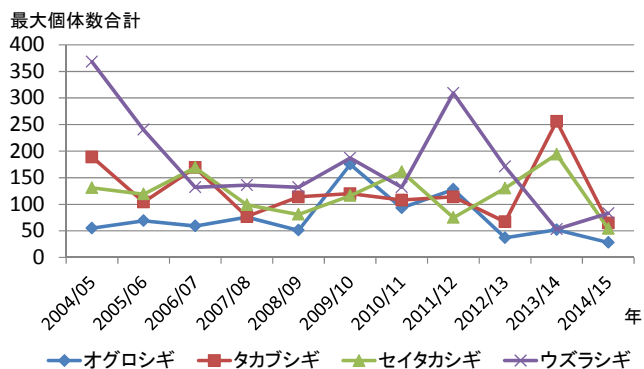


図3. オグロシギ、タカブシギ、セイタカシギ、ウズラシギの最大個体数の推移(継続サイトN=45)

する種で、2004年以降減少傾向を示しています(図3)。同じく内陸の湿地に生息する種である絶滅危惧Ⅱ類のツルシギ及びウズラシギ、オジロトウネン、ヒバリシギは昨年度に比べ増加していますが、2004年以降、徐々に減少傾向にあることが認められます(図3,4)。内陸の湿地に生息する種の減少傾向が認められることから、水田や蓮田、その周辺の灌漑設備など農耕地や湖沼、小河川の状況の変化が考えられます。今後の動向を注意深く見守る必要があると考えられます。

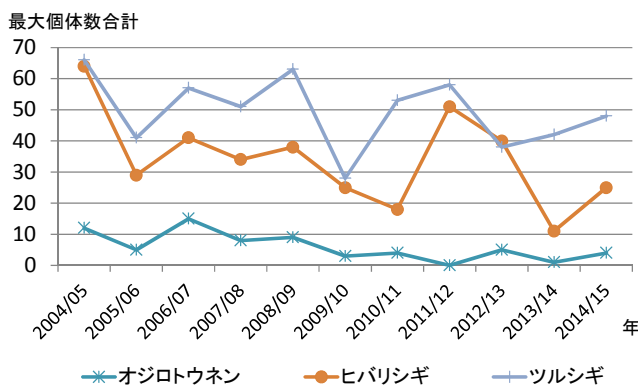


図4. オジロトウネン、ヒバリシギ、ツルシギの最大個体数の推移(継続サイトN=45)

また、規定の調査では、今年度春期は絶滅危惧ⅠA類のヘラシギの確認がありませんでしたが、調査時間外での確認(コムケ湖(北海道))や、不定期調査地(姫路市網干(兵庫):タイトル写真の個体)での確認がありました。

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター 2014年 春期概要

タイトル写真:ヘラシギ(三木敏史氏)

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター <http://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ <http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史 電話/Fax:042-401-8661 メール:shigichi@bird-research.jp